山陰教区寺族婦人会連盟50周年記念大会

2019(令和元)年10月10日(木)、ビッグハート出雲にて開催（記事は2・3ページ）

寺婦のひろば

第22号

山陰教区
寺族婦人会連盟

題字：鷺谷良子

寺族婦人会連盟 五十周年を迎えられて

山陰教区教務所長　佐々木　了　慎

令和元年十月十日、山陰教区寺族婦人会連盟五十周年の記念大会を、多数のご来賓並びに会員の皆様ご参集のもと、ビッグハート出雲にて開催いたしました。

歴代の役員並びに会員の皆様の長年に亘るご尽力のおかげをもちまして、五十周年という節目を迎えられましたこと、また、新たな始まりとなる記念すべき大会を賑々しく開催できましたこと、衷心よりお慶び申しあげますとともに、感謝申しあげます。

さて、寺族婦人の皆様は、寺院活動の現場において、篤いご法義のもと門信徒の方々の期待に応え、悩みや苦しみに寄り添うべく、努力を重ねておられることと存じます。

その証左の一端と存じますが、令和元年八月、『山陰中央新報』に「山陰は、『寺』と『人』との結びつきが全国トップ」との記事が掲載されました。一般社団法人お寺の未来（東京都）の調査によると、特定の寺院の門徒や檀家であるとの意識や、仏事を依頼する特定の寺院がある割合が、全国で最も高いとのことであります。その傾向について、「山陰は日常に寺の存在感があり、僧侶の顔が浮かぶ人間関係があると推察される。寺への意識は篤い。」との分析結果が掲載されておりました。

また、宗門における活動でも、本山への念仏奉仕団の参加者数が、二〇一八年度、山陰教区が全教区中で最も多く、二〇一九年度も現在のところ山陰教区が最も多いとのことであります。

これらのことは、ご住職・坊守様をはじめ寺族婦人の皆様のご尽力があってこそと、有り難く受け止めさせていただくとともに、愛山護法の思いで宗門・本山の活動をお支えいただいておりますこと、心から感謝申しあげます。

引き続き益々、寺族婦人会はもとより教区、並びに宗門・本山の将来を見据え、次の世代にお念仏のみ教えを弘め伝えるべく、積極的な伝道教化活動にご尽力賜りますよう、何卒よろしくお願い申しあげます。

婦人会連盟50周年記念大会

開会にあたり、佐々木了慎教務所長よりご挨拶

午前10時30分、開会式。竹下三郎宗会議員、高野顯信教区会議長、藤谷崇文組長会長、大迫五十鈴教区仏教婦人会連盟委員長に、ご来賓としてご出席いただきました。「らいはいのうた」のお勤めの後、「私たちのちかい」を唱和しました。

続いて、福井春美委員長よりご挨拶

今までご尽力をいただいた皆様に、感謝の意を表しました。

過去10年間で委員長をお務めいただいたお三方からご挨拶をいただきました。
1. 第10代委員長 服部やよ生 様　2. 第11代委員長 吉田真子 様　3. 第12代委員長 毛利壽惠子 様

寺族婦人会連盟五十周年記念大会開催にあたって

大田東組　正願寺　黒河ひろ子

寺族婦人会連盟五十周年の記念大会を開催する節目に当たり、実行委員としてかかわり貴重な体験をさせていただきました。昨年度より三回の実行委員会、資料の作成等、事務局と細かい連絡を取りながら、大会当日を迎えました。参会者の皆様には何か心に残る大会になればとの思いで準備を進めて参りましたが、大会終了後参会者のお一人から「とても印象に残る良い大会でしたよ。」と実行委員長にお声かけいただいたと聞き、私たち実行委員として、その一言でほっと安堵した思いがしました。

講話をいただいた水之江陽子先生は穏やかな語り口で、時には力強く語りかけられ、誰にでもわかる易しい言葉でお話しくださいました。大分県日田市での豪雨災害で仏婦会長のお孫さんが消防士として活動中に山崩れで亡くなられたお話や、先生ご自身ががん宣告され闘病されたお話等々、身近で起きた実話からのご法話でした。

形あるものは必ず壊れる（諸行無常）、私の中に確かなものは何もない。人生は思いどおりにはならない（諸法無我）、すべて

山陰教区寺族

記念大会の会場となったビッグハート出雲「白のホール」の参加者席。160名のご参加がありました。

布教使の水之江陽子師（大分教区日田組法林寺）から講話をいただきました。ご自身やご家族のご病気のこと、地元の災害のことなど、体験談をもとに優しくお話しくださいました。

お昼ごはんの後、健康運動指導士の宇山民代先生のレクチャーで体をほぐしました。

閉会式で、河野宜子副委員長よりご挨拶

会場の入口で、スタッフ一同の記念撮影

50周年を迎えるにあたり、歴代委員長を代表して、第８代委員長 岡本茂子様に、福井委員長より感謝状を伝達しました。

は苦しみの中にある（一切皆苦）、仏様が私のために働いてくださっている（涅槃寂静）、の四法印をありがたく説示くださいました。

午後の席ではお父様が肝臓がんで十年間闘病されたお話、ご自身が現在、市の福祉相談員として人の苦しみ、悲しみに寄り添うお仕事にかかわっておられるお話を聞かせていただきました。「人は迷惑をかけないと生きられない。お世話になって生きればいいのだ。自分の欲やグチばかりがそのままに、すでに南無阿弥陀仏の願いの中に包まれているのです。」と結ばれました。

質問コーナーでは会場からの質問、感想はありませんでしたが、福井委員長からの感想として、昨近はお寺を取りまく事情が変わり寺参りが少なくなったとか、お念仏が伝わりにくくなったという話を耳にするけれども、どうしたら伝わるかではなく、自分自身が坊守として努力を重ね門信徒一人ひとりへの声かけが大切であると感じたというお話で最後にまとめていただきました。

秋晴れのもと、皆様のお力をいただいて、無事五十周年記念大会を終えることができ感謝申しあげます。資料の活動事例集はお手もとにおいていただき、寺院活動の参考やヒントにしていただければ幸甚です。　合掌

寺族婦人研修会を終えて

大田西組　福正寺　三上正子

平成三十年七月十一日に予定されていました寺族婦人研修会が、豪雨災害にて中止となりました。島根県でも江の川を中心に被害にあわれた方々が、たくさんいらっしゃったことでしょう。お見舞い申しあげます。

さて、平成三十一年三月五日、あらためて本願寺山陰教堂で、講師に浄土真宗本願寺派総合研究所研究員の菊川一道師においでいただき開催されました。

宗門重点プロジェクトの実践目標「貧困の克服に向けて」を取り組むにあたって学ぶ研修でした。最初にご門主さまの『念仏者の生き方』より「仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど…。」私はどのように生きていくのかの覚悟を問われました。

講義の中で、「絶対的貧困」、「相対的貧困」の違いを知りました。今日、明日食べるものがない、命の危険にさらされているという状態を「絶対的貧困」といいます。

ところが、現在の貧困は、どこでも見かける若者の中に見えかくれしています。

「相対的貧困」とは、その国の文化水準、生活水準と比較して困窮した状態。その国の平均的な水準に比べて所得が著しく低い状態をいいます。これは親の貧困を表わし、日本では所得一世帯当り一二二万円以下です。

親の所得によって生じる、衣、食、住、教育、あそび、体験等できる子、できない子の差。皆との関わりの中で孤立する差。日々の暮らしの中で浮彫りになってきます。

貧困についてお話をいただきましたが、「私には何ができるのか」、これが一番の問題です。さまざまな支援の方法があるでしょうが、「私には」を求めて聴聞させていただきたく思いました。

合掌

山陰教区若寺族婦人研修会に参加して

鳥取伯耆組　勝福寺　若原行子

二〇一九年七月二十五日、山陰教区若寺族婦人研修会が鳥取伯耆組本巌寺様を会所に開催されました。

午前中は、江津組光善寺ご住職、波北顕師をご講師に『お寺はみんなのダイバーシティ』というテーマで講話をいただきました。「ダイバーシティ」とは、性別、人種、年齢、性格、学歴、価値観の多様性や個々人の違いを尊重し受け入れることです。

お話では、多様化する社会の中で生きづらさを抱えている社会的少数者の方にも目を向け、相手の視点に立って考える必要があるということやこの世のあらゆるものは繋がり合って存在するという縁起の教えは、お互いを尊重し認め合うことにつながるということを学びました。また、いろいろな漫画やアニメを紹介していただき、多くの人が抱えている悩みや生きづらさ、多様性がさまざまな場面で描かれていることを知りました。

人は繋がり合って生きていかなければならない社会で、お互いの価値観の差異を認め合い皆が尊び合って生きていける社会の実現に向けて、仏さまの視点を伝えていくのがお寺の役割だと思いました。

午後からのアトラクションは、「ゲゲゲの鬼太郎」の作者である水木しげるさんの記念館の見学と水木しげるロードの散策をしました。水木しげる記念館では、水木しげるさんの生い立ちや原画を見たり、たくさんの個性豊かな妖怪達に出会いました。妖怪達の世界に足を踏み入れたような気分になり、童心に帰り、皆でわいわい言いながら見て回りました。お子様と一緒に参加し、親子で楽しんでおられる方もいて、とても嬉しく思いました。

今年度の若寺族婦人研修会は、鳥取伯耆組が担当ということで年度初めに組内の寺婦の皆様と研修内容を考えました。私自身も研修会当日の司会進行の役目があり緊張しましたが、無事に終えることができて安心しました。

大変暑い日でしたが、本巌寺様の本堂は涼しく過ごすことができ、また心のこもったおもてなしをしていただきました。本当にありがとうございました。

2018(平成30)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 一般会計 歳計決算

歳入の部

款	項	費　目	決算額	予算額	対比△減	説　　明
1		会費	480,000	483,000	△ 3,000	
	1	本年度	480,000	483,000	△ 3,000	1,500円×320単位分
	2	過年度	0	0	0	
2	1	助成金	200,000	200,000	0	教区助成金
3	1	回金	0	0	0	特別会計より回金
4	1	参加費	138,000	180,000	△ 42,000	研修会参加費
5	1	雑収入	51,431	4,938	46,493	預金利息等
6	1	前年度繰越金	232,062	232,062	0	平成29年度繰越金
		合計	1,101,493	1,100,000	1,493	

歳出の部

款	項	費　目	決算額	予算額	対比※超過	説　　明
1	1	研修費	211,877	400,000	188,123	寺婦・若寺婦研修会
2	1	会議費	389,158	340,000	※49,158	代表者会、常任・編集委員会等
3	1	事務通信費	87,172	100,000	12,828	郵券料・事務消耗品
4	1	教化費	84,240	90,000	5,760	寺婦のひろば
5	1	回金	50,000	50,000	0	特別会計への回金
6	1	諸費	0	30,000	30,000	慶弔等
7	1	予備費	73,569	90,000	16,431	義援金、東北ボランティアセンター支援
		合計	896,016	1,100,000	203,984	

歳　入	1,101,493
歳　出	896,016
差引残額	205,477

※翌年度へ繰越

2019(令和元)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 一般会計 歳計予算

歳入の部

款	項	費　目	2019年度予算	2018年度予算	対比△減	説　　明
1		会費	480,000	483,000	△ 3,000	
	1	本年度	480,000	483,000	△ 3,000	1,500円×320単位分
	2	過年度	0	0	0	
2	1	助成金	300,000	200,000	100,000	教区助成金 200,000円 大会助成金 100,000円(教区)
3	1	回金	0	0	0	特別会計より回金
4	1	参加費	100,000	180,000	△ 80,000	研修会参加費
5	1	雑収入	14,523	4,938	9,585	預金利息等
6	1	前年度繰越金	205,477	232,062	△ 26,585	
		合計	1,100,000	1,100,000	0	

歳出の部

款	項	費　目	2019年度予算	2018年度予算	対比△減	説　　明
1	1	研修費	200,000	400,000	△ 200,000	研修会経費
2	1	会議費	400,000	340,000	60,000	代表者会、常任・編集委員会等
3	1	事務通信費	50,000	100,000	△ 50,000	郵券料・事務消耗品
4	1	教化費	90,000	90,000	0	寺婦のひろば
5	1	回金	250,000	50,000	200,000	50周年記念大会への回金 250,000円
6	1	諸費	40,000	30,000	10,000	慶弔等
7	1	予備費	70,000	90,000	△ 20,000	
		合計	1,100,000	1,100,000	0	

2018(平成30)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 特別会計 歳計決算

歳入の部

款	費　目	決算額	予算額	対比△減	説　　明
1	前年度繰越金	502,163	502,163	0	前年度繰越金
2	回金	50,000	50,000	0	一般会計からの回金
3	雑収入	4	837	△ 833	預金利息等
	合計	552,167	553,000	△ 833	

歳出の部

款	費　目	決算額	予算額	対比※超過	説　　明
1	翌年度繰越見込金	552,167	553,000	833	翌年度繰越見込金
2	回金	0	0	0	
	合計	552,167	553,000	833	

※差引残高 552,167 円を繰越金として翌年度へ繰り越しました。

2019(令和元)年度 山陰教区寺族婦人会連盟 特別会計 歳計予算

歳入の部

款	費目	2019年度予算	2018年度予算	対比△減	説　　明
1	前年度繰越金	552,167	452,163	100,004	前年度繰越金
2	回金	0	50,000	△ 50,000	一般会計からの回金
3	雑収入	7,833	837	6,996	預金利息等
	合計	560,000	503,000	57,000	

歳出の部

款	費目	2019年度予算	2018年度予算	対比△減	説　　明
1	翌年度繰越見込金	410,000	503,000	△ 93,000	翌年度繰越見込金
2	回金	150,000	0	150,000	50周年記念大会へ回金
	合計	560,000	503,000	57,000	

2019（令和元）年度「ダーナ献金」のご報告（現況）

今年度開催の行事におけるダーナ献金の合計は、118,093円でした。内訳は次の通りです。

- **若寺族婦人研修会（７月25日開催）　13,050円**
- **寺族婦人会連盟50周年記念大会（10月10日開催）　105,043円**

ご参加の皆様よりご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

お寄せいただいたダーナ献金については、常任委員会にて協議のうえ、送金先を決定いたします。

なお、山陰教区寺族婦人会連盟のダーナ活動として、東北ボランティアセンターへのお茶会支援を継続して行っておりましたが、二〇一九年度、終了することとなりました。

東日本大震災東北教区現地緊急災害対策本部よりご連絡があり、東日本大震災から八年が経過し、今後の支援活動の在り方について、各地で活動を続ける支援団体の皆様と議論を重ねておられたそうですが、宮城県名取市の仮設住宅でのお茶会が三月末をもって終了したことをひとつの節目とし、支援物資の募集を終了されるとのご報告があったためです。

本部長よりのお手紙の中で、

「皆さま方のご支援が、被災者の方々が生きていく上での大きな励みに、力になりましたことは間違いのないことであり、ここに厚く御礼申しあげます。」

とのお礼のお言葉がありました。

復興が進む中、こころの復興は目に見えにくく、今なお困難な状況にある方も多くおられるそうです。東日本大震災の被災地域の皆様に、これからもこころを向けていくことが大切なことではないでしょうか。

物資の受け入れは終了されましたが、皆様におかれましては、これからもいろいろな形で復興支援にご協力いただきますようお願い申しあげます。

だれにでもできるダーナ

ダーナとは、仏教語で「布施」（施し）のことで、法施（真実の仏法を伝え広める）・財施（金品を分かち合う）・無畏施（恐れを除き、癒しと勇気を与える）・無財の七施（思いやり、ささえあうこころ）などに分かれます。なかでも無財の七施は、いつでも、どこでも、だれでも、自分のできる範囲で実践できるものであり、思いやりのある生き方を示すものです。

ダーナを行うにあたっては、「させていただいて、ありがとう」という気持ちを忘れないようにしましょう。

無財の七施

1. **眼施**（あたたかいまなざし）
2. **和顔悦色施**（にこやかな表情）
3. **言辞施**（やさしい言葉）
4. **身施**（精一杯のおこない）
5. **心施**（慈しみ深いこころ）
6. **床座施**（人にあたたかい席を）
7. **房舎施**（気持ちよく迎えるこころがけ）

（仏教婦人会総連盟パンフレットより）

編集後記

「寺婦のひろば」第二十二号をお届けいたします。

元号も平成から令和に変わりました。令和元年度として大きな行事、山陰教区寺族婦人会連盟五十周年記念大会が行われました。

スタッフとしても、大会前日は準備と講師先生を囲んで有意義な時間をすごさせていただきました。

当日は、とてもさわやかな一日で、大会の内容も「とても良かったよ」と声を掛けてくださってホッとし、スタッフ一同大喜び。多くの方に支えられていることに気づかされた一日となりました。

ラグビーワールドカップの日本代表ではありませんが、参加の皆さまも含めて、「ワン・チーム」のすてきな大会でした。

ありがとうございました。今後もよろしくおねがい致します。

教区寺婦連盟へのご意見ご容望等ありましたら教区事務局までお聞かせください。（F）